

機械的に活性化された反応に対する化学的作用 II. 機械的助起によるニッケルおよび鉄カルボニルの生成反応の化学的活性化 G. Heinicke, H. Harenz, *Z. anorg. allgem. Chem.* 324 (H. 3~4), 185~196 (1963).

シリコンについて LXVIII ガスクロマトグラフによるクロロシラン中の SiH<sub>4</sub> の検出 H. Rotsche, *Z. anorg. allgem. Chem.* 324 (H. 3~4), 197~201 (1963).

(坂野 武)

塩基性耐火物の吹付による炉の寿命の改善 J. Bowman, *J. Metals* 15 (No. 8), 574~576 (1963).

LD 製鋼法の成長と発展 J.K. Stone, *J. Metals* 15 (No. 8), 581~584 (1963).

電気製鉄炉 J. Astier, *J. Metals* 15 (No. 9), 619~626 (1963).

溶媒抽出と電解還元によるレニウムの製錬 P.E. Churchwood, J.B. Rosenbaum, *J. Metals* 15 (No. 9), 648~650 (1963).

鋼製スラグの粘性 R. Higgins T.J.B. Jones, *Bull. Inst. Min. Met.* 72 (No. 682), 825~864 (1963).

Co-S, Ni-S, Cu-S, Ag-S, 各二元系融体の電気伝導度 E.A. Dancy, G.J. Derge, *Trans. AIME* 227 (No. 5), 1034~1038 (1963).

炭素飽和溶鉄とスラグ間のマンガンの分配 W.O. Philbrook, S.K. Tarby, *Trans. AIME* 227 (No. 5), 1039~1044 (1963).

融解 Ag-Si 合金中への窒化シリコンの溶解度と Ag および Si の活量 (at 1400°C) E.T. Turkdogan, P. Grievson, *Trans. AIME* 227 (No. 5), 1143~1146 (1963).

SiO<sub>2</sub>-CaO-MgO-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> スラグと Fe-Si-C 合金融体間の Si の分配 R.H. Rein, J. Chipman, *Trans. AIME* 227 (No. 5), 1193~1203 (1963).

金属融体の密度測定の新しい方法 A.E. El-Mehairy, R. G. Ward, *Trans. AIME* 227 (No. 5), 1226~1229 (1963).

鋼転炉における耐火物の疲労の機構 H.M. Mikami, A. G. Sidler, *Trans. AIME* 227 (No. 5), 1229~1245 (1963).

スラグ中への硫化物の溶解度 W. Wiese, *Erzmetall* 16 (Heft 8), 377~386, 16 (Heft 9), 452~458 (1963).

溶銲炉粗銲の脱鋼法の研究 F. Johannsen, B. Rose, *Erzmetall* 16 (Heft 9), 443~451 (1963).

酸化鉄フェームの成因 R.E. Bates, *J. Iron. Steel. Inst.* 201 (Part 9), 747~751 (1963).

(増子 昇)

垂直輸送中における流動しているガス-固体混合物への熱伝導 W.J. Danziger, *Ind. Eng. Chem. Process Design and Development* 2 (No. 4), 269~276 (1963).

Packed-Fluidized Bed の半径方向への熱伝導 E.N. Ziegler, W.T. Brazleton, *Ind. Eng. Chem. Process Design and Development* 2 (No. 4), 276~281 (1963).

モリブデンとタンガステンの二硫化物および二酸化二硫化物について F. Zado, *J. Inorg. Nucl. Chem.* 25 (No. 9), 1115~1118 (1963).

真空中および種々のふんい気中でのシュウ酸イットリウムの熱分解 A. Glasner, E. Levy, M. Steinberg, *J. Inorg. Nucl. Chem.* 25 (No. 9), 1119~1127 (1963).

硝酸鉛の熱分解 F. Vratny, F. Gugliotta, *J. Inorg. Nucl. Chem.* 25 (No. 9), 1129~1132 (1963).

高分子量の塩化アンモン置換体による塩化物溶液からの Co (II) の抽出に及ぼす水素イオンの影響 M.L. Good, S.E. Bryan, P.F. Holland, Jr., G.J. Maus, *J. Inorg. Nucl. Chem.* 25 (No. 9), 1167~1173 (1963).

ハロゲン化チタン (IV) とアリファティク・アミンとの反応 R.T. Cowdell, G.W.A. Fowles, R.A. Walton, *J. Less-Common Metals* 5 (No. 5), 386~396 (1963).

白金族金属の酸化 C.A. Krier, R.I. Jaffee, *J. Less-Common Metals* 5 (No. 5), 411~430 (1963).

一炭化ウラン-一炭化プルトニウム系 S. Rosen, M.V. Nevitt, A.W. Mitchell, *J. Nucl. Materials* 9 (No. 2), 137~142 (1963).

電子衝撃によるウランの帯溶融精製 J. Pascal, P. Lacombe, *J. Nucl. Materials* 9 (No. 2), 155~169 (1963).

650°~1000°C での市販ベリリウムの熱蒸着および不純物 P. Bastien, P. Pointu, *J. Nucl. Materials* 9 (No. 2), 185~196 (1963).

1500~2000°K におけるウランと酸化物の平衡 A.M. Anthony, R. Kiyoura, T. Sata, *J. Nucl. Materials* 10 (No. 1), 8~14 (1963).

窒化ウラン P.E. Evans, T.J. Davies, *J. Nucl. Materials* 10 (No. 1), 43~55 (1963).

溶媒抽出の化学に関するシンポジウム Part II *Nucl. Sci. Eng.* 17 (No. 2), 234~308 (1963).

溶媒抽出による廃液溶液からの分裂生成物の回収 D.E. Horner, D.J. Crouse, K.B. Brown, B. Weaver, p.234~246

酸性有機リン酸抽出剤の型とそのトランス・ウランウムの分離への適用 G.W. Mason, D.F. Peppard, p.247~251

トランス・プルトニウム元素の製造にたいするアミンおよびフォスフォネート抽出剤の適用 R.E. Leuze, R.D. Baybarz, Boyd Weaver, p.252~258

鉱石からベリリウムの溶媒抽出, 回収および精製 R.A. Wells, D.A. Everest, A.A. North, p.259~267

アセチルアセトン-EDTA 溶媒抽出によるベリリウムの精製 R.E. Moore, J.H. Shaffer, C.F. Baes, Jr., H.F. McDuffie, C.E.L. Bamberger, p.268~273

抽出剤としてのアミン類 C.F. Coleman, p.274~286

抽出剤としてのアミン-有機相の研究 W.E. Keder, A.S. Wilson, p.287~297

Eurex 法: アミン溶媒抽出による放射線 U-Al 合金の処理 F. Baroncelli, G. Calleri, A. Moccia, G. Scibona, M. Ziferero, p.298~308

二酸化ウランへの酸素の溶解熱 R.L. Colombo, *Nucl. Sci. Eng.* 17 (No. 2), 309~310 (1963). (新居和嘉)

### 放射線化学

液体シクロヘキサンの放射線分解における飛跡効果の研究 J.W. Faleoner, M. Burton, *J. Phys. Chem.* 67, 1743~1747 (1963).

イオン結晶の放射線化学 III. 照射硝酸塩下のラジカル生成およびばい煙に対する研究 J. Cunningham, *J. Phys. Chem.* 67, 1772~1779 (1963).

【つづきは 71 ページへ】

## 記 事

会員入会報告 (昭和 38 年 9 月 13 日~12 月 5 日)

維持会員: 日東化学工業株式会社 (東海林武雄), 東洋レーヨン株式会社基礎研究所 (星野敏雄), 阪神溶接機械株式会社 (山野七重吉) 【東北・北海道支部】 渡辺治 (東北大)

正会員: 【関東支部】 宗菅重行 (東工大), 堀善夫 (東大), 福崎忠夫 (信光社), 早野茂夫 (東大生研), 中西隆敏 (東大), 森永喜平 (防衛大), 小林賢三 (慶大), 荒哉国次 (慶大), 藤田清 (古河電池), 矢後整一 (大日本ソノ化), 小池芳雄 (東京教育大), 宮坂哲夫 (千代田興業), 宮川敏夫 (熊谷組), 雨倉順治 (日立製作中研), 望月正司 (日立製作中研) 【北陸支部】 植田悦夫 (日本曹達) 【関西支部】 吉本晴一 (日本研研材工業), 日置康三郎 (森永製菓), 林繁 (湯浅電池), 沢村幹雄 (立命館大), 福永幸次 (立命館大), 学), 藤井貞雄 (日新電機), 大田国輔 (光洋精工), 辻福寿 (京大) 【九州支部】 谷口利雄 (福岡電波学園電子工業人), 竹山尚賢 (九大)

電気化学便覧編集委員会 (第 13 回幹事会) 10 月 1 日 (火) 16.00 丸善会議室にて開催。向坊委員長, 大戸, 小寺, 田川, 早川, 久松, 本多各幹事, 井上, 丸根関, 前田出席, 議事 1. 原稿校正に際し注意事項などを協議した。

編集委員会 10 月 25 日 (金) 15.00 鎌倉市材木座公務員若宮荘にて開催。坂井委員長, 佐藤, 鈴木, 妹尾, 竹盛, 本多各理事, 青柳, 大戸, 小寺, 関根, 高橋, 早川, 向坊, 守永, 山科各委員出席, 議事 1. 会誌 1 月, 英文誌 Vol. 31, No. 1~2 を企画した。2. 電熱化学委員会からの申し立てによる資料 250 ton 電気弧炉炉について (小島三郎氏) を承認。3. 特許権のありかたについては 12 月技術ニュース委員会, 編集委員会にて再検討すること。4. 技術報文欄の設置の件は編集理事で検討することにした。5. イオン交換のシリーズを立案した。6. 錯塩化学シリーズについては工化誌と同様な企画事情を調べ立案することにした。

編集委員会 (英文誌) (第 2 回) 10 月 25 日 (金) 17.00 鎌倉市若宮荘にて開催。向坊主査, 本多理事, 小寺, 関根, 早川, 守永, 山科各委員, 井上出席, 議事 1. 表紙デザイン改訂案より選定した。2. 第 31 回大会予告を掲載することにした。3. 関根委員渡印の際の第 3 回セミナーでの講演を本英文誌に掲載を勧めるよう依頼した。

編集委員会 (英文誌, 第 3 回) 11 月 18 日 (月) 16.00 電気クラブにて開催。向坊主査, 本多理事, 小寺, 関根, 松田, 守永各委員, 井上出席, 議事 1. Vol. 31, No. 3 を立案。2. No. 4 は 1 月 15 日までに原稿をそろえることにし論文確保につとめる。3. Vol. 32 は各号 60 頁程度のものとし, 中 1 号を特集号とする件は次回再検討する。4. 来日中のガーディナー氏から米国の電気化学学会と本協会の緊密化について希望があり, この交渉を始めるよう理事会に申し入れることにした。

秋季研究発表大会 11 月 2 日 (土) 東京大学工学部 1 号館, 2 号館にて開催, 11 会場にて研究報告 153 件, 特別講演 8 件を行なった。なお電気化学部門は 30 件に及んだ。午後 6 時半より日本化学会にて各学協会役員懇親会を開催した。特別講演者は鉄道技研 松田種光氏, 東北大 村上憲一氏, 天然ゴム研 国沢新太郎氏, 丸善石油 洪沢芳雄氏, 東大航研 山崎毅六氏, 北大 岡本剛氏, 東洋綿花 大木善久氏, 東工大 祖父江東氏。

ポーラグラフ討論会 (第 10 回) 日本ポーラグラフ学会, 同中部支部, 日本化学会, 日本分析化学会と共催により 11 月 5 日 (火)~7 日 (木) 3 日間名古屋日本生命ビル講堂において開催。第 1 日 研究報告 19 件, 第 2 日 18 件, 第 3 日 9 件があった。

広告委員会 11 月 13 日 (水) 16.00~17.00 古河電気工業 (株) 鬼怒川庄にて開催。渡辺 (古河電工), 中村 (鉄興社), 沢井 (電化), 堀内 (旭硝子), 小林 (日軽), 梶川, 松野各理事, 武井, 須藤出席。議事 1. 経過報告。2. 11 月号より 3 月号の企画報告。3. 製品紹介に代えて普通広告を掲載する場合は同価格 1 ページ 15,000.00 で取り扱うことを決めた。4. 今後の運営について, 本年度は委員長空席のまま運営し, 理事会から申し出がある場合は改めて考慮することにした。5. 本年度 1 月, 3 月の 2 回委員会を開催することとした。

東北北海道支部講演, 見学, 懇談会 10 月 4 日 (金), 5 日 (土) 山形地区において開催。4 日は 13.00 より長井市東京電器 (株) にて次の講演を行ない, 終わって 16.00 より懇談会を開いた。1. 高純度アルミニウムはく電解極面化について東京電器 (株) 石川雅邦氏。2. 電鍍耐火物について東芝電機 (株) 伊藤三氏。5 日は東京電器 (株), 東芝電機 (株) を見学した。

中部支部金属表面処理に関する講演会 メッキ技術研究会と共催にて 10 月 4 日 (木) 名古屋中小企業センターにて開催。次の講演を行なった。1. 電子顕微鏡によるアルマイト皮膜の構造 日立中研 赤堀宏氏。2. 電気メッキの最近の進歩とその問題点 阪府大 石田武男氏。3. 最近のクローム鍍金の進歩 名工試林一氏。来聴者 100 名, 終わって有志による懇親会を開催した。出席者 20 名。

中部支部見学会 10 月 5 日 (金) 愛知県知立町知立技術工業 (株) に集合, 同所見学の後講演メッキに関する JIS について豊田工業 (株) 中島 務氏を聴講し, 終わって三ヶ根山を遊覧した。参加者 50 名。

九州支部講演見学会 10 月 11 日 (金), 12 日 (土) 2 日間延岡市旭化成延岡工場に集合。第 1 日は同社会議室において次の特別講演を行なった。1. 最近の調味料 同工場次長上村正光氏。2. 硫化水銀の半導体的性 宮崎大 竹井国雄氏, 同夜富久松旅館にて懇親会を開催した。第 2 日は旭化成薬品工場, 食品工場, マルマル工場を見学し, 正午すぎ延岡駅前にて解散した。

北陸支部秋季大会 (本協会北陸支部, 高分子学会北陸支部共催) 11 月 8 日 (金), 9 日 (土) 両日長岡市において開催。第 1 日は新築後間もない長岡工業短期大学にて講演会を開催した。もともと心配された天候もまずまずで参加者の出席より研究発表会は電気化学関係会場で約 100 名, 高分子の会場で約 200 名, 今後の特別講演会では最近特に関心の高いエネルギー変換の諸問題について東大の向坊教授から多角的な検討を加えたお話があり, また高分子化学の新分野開発について東京工大の神原教授より経済的因子も考慮に入れたきわめて示唆に富むお話があった。なお特別講演会には本会会長森本旭晴子社長, 理事植村同社常務がともども来岡され, 会場に臨席された。聴講者 300 名を超え, 大教室は満員となった。当時午後 5 時より長岡市内舞楽で両支部合同で懇親会が催された。出席者は神原, 向坊両講師, 森本会長, 植村理事, 外村, 野路両支部長, 山崎短大工学部長, 高沢工学部長, 市長代理, 協会石坂庶務理事, 須藤, 協賛会社, 見学会社のかたがたを加え 55 名となり盛会をきわめ



支 部